

▷子どもノンフィクション文学賞 ◇

とコメントをくださった。

その後、5月5日の「登録勧告」の記事に冗談で、「ぼくの応援おかげで登録してもらえそうなので、うれしかったです。」

と書いていたら、館長さんが赤ペンで、

「よかつたね」

と入れてくださついて恥ずかしかつた。

館長さんが、「楽しく学べる博物館」として書いてくださつたもののうち、「安川電機みらい館」は、開館は平日のみ、10人以上の団体での申し込みが必要なので諦めていた。なので、8月26日、安川電機の玄関口ともいえる黒崎駅に、「MOTOMAN」のおみくじロボットが設置されたという記事に僕は食いついた。体育大会の代休だった9月16日に行つてみたら、平日なのに行列ができていた。

「駅にあるロボットは、7つの関節を持つたものです。長いレールには、つながっていない部分があり、その部

分にボールが転がつてくる前にロボットがレールを持つ

ていきます。僕の時はボールが大吉の所へ転がつていきました。すると、それまでボールを吸い上げていたアームが今度は大吉のおみくじを吸い上げて、受け取り口に落としました。何でも持てるアームに僕の目は釘付けになりました。」

転機が訪れたのは間もなくだつた。10月9日、「まるで本物の一夜城」、ベニヤ板に描いた黒崎城が12日まで城跡に設置される、という記事の最後に、「10日前10時半後4時に一般公開される」と書いてあつたのだ。こういうことがあるから、地方面は特に丁寧に読む必要があるのだ。

「安川電機みらい館」は、中三の英語と社会の教科書にも載っている「MOTOMAN」が、ものづくり、医療や介護などさまざまな分野で活躍できることを、展示やゲームで楽しく学べる場所だ。僕は開館一時間前から並び、閉館ギリギリまでねばつて、これまで最長の8ページのレポートを書いた。

「MOTOMAN」に刀を持たせて、花や丸太を切らせ

る映像が流されていました。剣士の動きをコンピューターに取り込み、プログラミングの技術を使ってロボットに技を教え込ませていました。人と並んで切っている様子がそつくりに見えて、繰り返して見ました。」

一ヶ月後の11月11日夕刊に、「ロボ居合動画海外で人

気 再生500万回の半数超」という記事が載った。僕はド

キドキしてきた。みらい館の人に僕もこの「BUSHI DO PROJECT」がすごいと思ったと伝えたい！

中一が修了しての春休みに思い切って手紙を出したら、4月6日に一日だけ開けるので、よかつたら遊びに来てください、と電話があつた。受付でノートを出すと、

「館長が喜びますので、直接渡してください。」と言わされた。岡林千夫館長さんは、うんうんと頷きながら読んでくださつた。半年前と違つて僕達しかいないピカピカの館内に座りながら、勢い余つて何だか大変な所まで来てしまつたぞと思つた。館長さんは、ページいっぱいにメッセージを入れてくださり、趣味のラジコンの写真を見せてくださつた。

「梅田君は理科が好きかね？」
と聞かれ、はいと答えたら、

「安川電機に入らんかね？」

えつ!? 僕はどう言えばいいか分からなくて答えられなかつた。

帰りに母が、

「なんですがハイと答えられんのかね。お母さんやつたらすぐ言うけどね：せつかくのチャンスもつたいなかつたねえ。」

と言つた。この時ばかりは母の言うことはごもつともであつた。

中一時代、僕は自分で書いたノートに後押しされながら、少しづつ行動範囲を広げていた。五年間書きためた自学ノートは13冊になつていた。

8月6日(日) 地球滅亡まであと26日

前日から北九州に近づいていた台風の影響で、「わつ

▷子どもノンフィクション文学賞 ◇

しょい百万夏まつり」も、午前中行く予定にしていた高校進学フェアも中止になつた。風が強いため花火はさすがに無理そうだが、受験生っぽいイベントの予定がなくなり急に力がぬけた。広島の平和式典をテレビで見てから数学のワークをした。

午後は、漫画ミュージアム五周年記念企画「黒田征太郎が松本零士に聞く」というトークショニーに参加した。

会場の受付の四人のうち一人は「銀河鉄道999」の謎の美女メーテルだつた。メーテルは市のイベントにいるのを見たり、漫画ミュージアムの受付をしているのを見かけたことがあつた。わーメーテルや、と思ひながら近づくと、なんと初対面のメーテルが、

「梅田君」

と話しかけてきた。人生には、けつこうちよくちよく思ひがけないことが起きる。僕はどうちらかなど「宇宙戦艦ヤマト」の方が好きだし(ちなみに真田史郎ファン)機械の体はいらない。びっくりしていたら、メーテルは

さらに驚きの発言をした。

「私は松本清張記念館で働いています。梅田君の感想文、良かつたですよ。涙が出ました。」

この「感想文」とは、松本清張「或る『小倉日記』伝」の読書感想文のことだ。僕は去年、このコンクールの表彰式に出席し、これまで書きためた清張記念館の企画展のレポートを持参して、また「行きつけ」をひとつ増やしていた。成り行き上、他の受付の人が、

「え? 何? 感想文って?」

となり、メーテルがみんなに僕を紹介するという不思議な状況が生まれた。

松本清張記念館は、東京に建つてはいた松本邸の一部を館の中に収めている、ものすごい博物館だ。清張といえば推理小説のイメージが強いが、実はいろいろなジャンルの作品があり、その量は読み残しのないようにするのが難しくくらいだ。編集者が作家宅で原稿を待ち、書けた分だけもらい何度も印刷所とを行き来する、そんな時代の大作家がどんな思いで作品を生み続けたかが分かる

この館に、沢山お客様が来て本を読んでもらえるとい
いなど僕は静かに応援している。

話は戻り、トークショードは始まつた。松本さんの大ファンだという黒田さんがきつかけを作ると、松本さんはスラスラ話し始めた。

「小倉は良い勉強ができる良い街です。私が小学生の頃、先生に『松本、飲め。』と言われて酒を鍛えられて、中学生になると『松本、漫画を描くのだつたら英語が読めんといかん』と英語をしつかり教えてもらつた。また、『お前、SF漫画を描くんなら理科が分からんといかん』と理科も教えられ、そうかと思ったら『漫画を描くなら字がちゃんと書けんといかん』と習字をしごかれました。これらのことは高校生になつて漫画を描くにあつて、とても役に立ちました。」

表情を変えずに話す内容が面白くて、松本零士さんは人を笑わせる天才だと思った。心残りだったのが、話が長引いて質疑応答の時間がなくなつたことだ。その時松本さんは、「戦後、近所の人々に『8月9日小倉にB-29が来た時、全ての高射砲があるだけの弾を撃ち上げて煙幕を作つた』と聞いてホントかいなと思つていたけど、アメリカでそのことを裏付ける米軍資料を見たから間違いない」と話したのだ。当日は晴れ予報だつたのに、小倉に近付くにつれ雲が厚くなり視界が遮られた話は事実で、これは前日の八幡大空襲の残煙によるものという説が一般的になつているが、それだけではないなら僕にとつては新事実だ。以前読んだ個人の回顧録に、八幡製鐵所もこの日コーケスを焚いて煙幕を作つたと書いてあり、なぜ空襲の翌日に?と思つていた。また課題がひとつ増えた。

小倉が生んだ二人の松本さんは、どちらもパワー溢れる人だ。零士さんは来年80歳だが、歯は全て自分のもので、体もどこも悪くないのだそうだ。まだやりたいことがいっぱいあると話していた。

清張さんは40歳を過ぎて作家デビューをし、書きたいものがありすぎて自分には時間が足りない、とよく言つていたそうだ。清張さんならメールに、千年生きられ

第9回
△子どもノンフィクション文学賞〇

る機械の体をもらいにアンドロメダへ行こうと声をかけられたら、喜んで999号に乗つたに違いない。

8月10日(木) 夏休み終了まであと22日

楽しく自学ノートを書きながら、僕の中である疑問が生まれ、将来への不安になつていて。それは自分が理系か文系かわからないということだ。僕の好きなものは両方にあるが、高校では進路によつて理系と文系にクラスが分かれるらしい。キロボを作つたロボットクリエイターの高橋智隆さんは、文系で大学を卒業した後、ものづくりの夢を諦められなくて京大工学部に入り直し時の人となつたが、誰にでも真似できることではない。
あと少しで中一が終わるという頃、片峰さんが、

「梅田君、次の企画展はこれですよ。」
と、「時を刻む」展のチラシ見本をくださつた。

僕はびっくりしきりすぎて声も出なかつた。東芝未来科学館が復元した、田中久重の最高傑作といえる万年時計が

北九州にやつて来る！

この時計は正式名称を「万年自鳴鐘」といい、上部は天球儀、六角の面にそれぞれ和時計と洋時計の他、七曜、十干十二支、二十四節気、旧暦日付と月齢を表示する面があり、しかも全ての進行が連動しているものすごい時計なのだ。すごいぞイノベーションギヤラリー！でかしたぞイノベーションギヤラリー!!そして、チラシの下の協力のところに、時計・宝石・めがねのヨシダと書いているのを見つけた。きっと社長さんのコレクションの展示もあるのだろう。自分の行きつけ二ヶ所のつながりを見つけてワクワクした。

春休みに入り、めがねを作りにヨシダへ行つた。担当の川本さんにノートを見せると、すぐに社長さんが来てくださつた。

「フレームを決めたら二階へどうぞ。火縄銃を持たせてあげよう。」

えつ火縄銃？僕はフレームどころではなくつた。

社長さんは階段を上がつてすぐの所で火縄銃を持つ

て、

「ちょっと重たいよ」

と渡してくださった。こんなすごい物、素手で持つていの？火縄銃はちょっとどころではない重さだった。かつて日本のどこかで撃たれた本物の銃だ。

「構えられる？」

と言われ頑張つたが、帰宅部の僕にはとても無理で、どうにかおなかの高さまで持ち上げて写真を撮つてもらつた。

「それから、『いい話をふたつ話そう』と社長さんが人生のヒントになる話をしてくれました。（中略）社長さんは、好きな大学に入る事を目標にすると、そこを失敗しただけで夢までが遠くなる、最初になりたい自分を決めて、そのためにどこで努力をするかを考える方が充実した人生を送れるという事を僕に伝えるために、ふたつのエピソードを教えてくれました。」

帰る時、さつき撮つたばかりの写真を男の社員さんが渡してくださった。めがねと一緒に社長さんと社員さん

方の親切をいっぱいもらつて帰つた。

4月23日、企画展「時を刻む „かたち“ になつた人類の英知」が始まつた。この日にヨシダの社長さんから招待券が届いて嬉しかつた。会場には先月ヨシダで見せてもらつた新しいコレクションがいくつもあり、あの火縄銃も展示されていた。もちろん「お手をふれないでください」である。火縄銃は一五四三年に種子島に伝來したが、その時一緒にやつてきたものがキリスト教と機械式時計だ。展示方法が面白いなと思つた。

お目当ての万年時計は会場のまん中にあつた。これは季節によつて長さの変わる「不定時法」により鐘が鳴るので、油断していくたら見逃してしまう。

「講演会が終わつた後、企画展を見つめると、片峰さんが『4時50分ごろに万年時計が鳴るから、その間に本を借りませんか』と声をかけて下さいました。4時45分からショーケースに耳を近づけて待つていました。（中略）4時50分に『チーン』としゃれた音が7回鳴りました。時計の第3面の時刻表は7を指していて、7つ時だつた

▷子どもノンフィクション文学賞 ◇

からかと思いました。」

五時の閉館までに本を借りて、鐘の鳴るのも見られる
ように教えてもらつてありがたかつた。

7月3日までだつたこの企画展に僕は四回出かけた。

「チーン」を確実に聞くため、出かける時間を工夫した。
初日に4時50分が七つだったので、次からは開館中に聞
けるのは八つが最後だ。

「和時計は太陽が出ている時、出ていない時をそれぞれ
6つに分けます。夏はだんだん昼間の一つが長くなるの
で見当をつけて万年時計の鳴る時間に行つたので、職員
さんが、『すごいね』と言いました。」

この頃から僕は次第にひとりで出かけるようになつた
が、夏休みに安川電機へ、春休みのみらい館訪問と新し
くできた歴史館の感想を書いたノートを持つて行つた時
は緊張した。

岡林館長さんと一緒に防衛大出身の職員さんが話をし
てくれた。【やすかわ君のソフトクリーム】をごち
そうになりながら潜水艦のスクリューは扇風機のフイン

が元になつてゐる話などをしていたら館長さんが、

「そろそろ、先月東芝未来科学館に行つて茶運び人形の
説明を聞いたよ。梅田君の新聞がよく書いていることが
分かつたよ。」

と壁を指さした。いろんな人から寄せられた「やすかわ
君のアイディア」のイラストが貼つてある一角に、僕が
以前送った「江戸のからく里たんけん新聞」が貼られて
いた。これは一度作つた「大人の科学」の茶運び人形を
分解して仕組みを解説した壁新聞だ。ほめられて嬉しか
つたが、僕より先に東芝未来科学館に行つた館長さんが
うらやましくてたまらなかつた。

帰るやいなや、

【潜水艦のスクリュー】：あの形は軍事機密やもんね、そ
りやまた理系男子が三人集まつてマニアックな話をした
んやねえ。ちゃんと伝わる言葉で受け答えができる?ソ
フトクリームのお礼は言つた?」
と母は次々と質問を繰り出してきた。しかも、ちゃんと
話したと言つても、

「あっちゃんの言うことを信用するしかないねえ。」
と全く信じてもらえないで困った。

一週間後、コメントがびつしり書き込まれたノートが
帰ってきた。同封の手紙に館長さんはこう書いてくださ
った。（一部を抜粋）

「私は文章で表現する力と科学の力には密接な関連があ
ると思います。例えば、相対性理論を発案したAINISHI
YUAIINはもちろん大天才なのですが、時間や空間の伸
び縮みについて、難しい数学だけではなく、例え話で誰
にでもわかりやすく表現することに長けていたと言われ
ています。このように、自分の考えを伝える力がどのよ
うな分野でも重要だと思います。」

僕はこのかっこいい文章にしびれた。こんな手紙を僕
もいつか誰かに書きたいと思つた。

この年末、ノート恒例「僕の10大ニュース」に、「安
川みらい館の岡林館長さんと知り合いになる」という項
目を入れた。平成28年は、一生分の運を使つたんじやな
いかといふくらい充実した年だった。

この年、自学ノートを続けていて、「こんなに嬉しい
ことはない」という出来事がもうひとつあった。これは
「機動戦士ガンダム」の中の名ゼリフなのだが、このガ
ンダムをデザインした大河原邦男さんの企画展が、北九
州漫画ミュージアムであり、なんと初日11月5日のサイ
ン会に当選したのだ。

僕はかわいい幼稚園生の頃から、プラモデルを作つて
いた。そして自学ノートを始めてからは、作つたプラモ
の写真を貼つて、工夫した所の解説を書いていた。大河
原さんに関連のあるページを15冊の自学ノートから探し
てコピーをとり封筒に入れた。そして、ノートを持って
会場へ向かつた。

会場で直接見せようと思ったのは、ガンダムの首と左
腕がとれた場面のジオラマだった。とれた部分が光つて
いる写真と、配線図を描いたページを開いて順番を待つ
ていた。

「ついに僕の番がまわってきて、図録を開いて大河原さ
んにわたしました。そしてノートを出しました。僕が見

第9回
△子どもノンフィクション文学賞 ◇

せたページは、読売新聞日曜版の大河原さんの特集と小3の頃に作ったプラモの感想でした。大河原さんは『ああ、こんなのがあつたね』という感じでうなずいていました。次にプラモの所を見せたら、『ああ、これは』と見てくださいり、大河原さんだけでなくスタッフも『わあ、力作ですね』と驚いていました。大河原さんは、ノートに描かれていた配線図に目を向け、『これ（コードが）光るん？』と聞かれました。僕は緊張して『はい』としか言えませんでした。』

この10ページのレポートの最後に僕は、「ありがとうございます」と握手したとき、僕は今まで生きた中で一番幸せでした。』と書いた。いろんな場面で自学ノートが僕を応援してくれるようになっていた。

見つけた「世界遺産のある街北九州」のポスターのアイディアがもくもくと浮かんできた。藤江先生ごめんなさい。

まず世界遺産に登録された製鐵所旧本事務所。窓からは浅黄色の作業服を着た一般工員の他、製鐵所誘致運動に携った安川敬一郎、高炉を改造して安定した操業をできるようにした野呂景義、製鐵所で働いていた作家の佐木隆三と漫画家の富増万左男をのぞかせた。

それから伊藤博文に、岩下俊作「富島松五郎伝」を読む車夫、くろがね堅パンにくろがね羊羹、オマケで空には、「くろがね線」の車両を描いた。そして僕の夏休みは終わった。

平戸先生を驚かせようと、九月一日に朝一番で持つて行つたら思いがけず、

「学校から出せるかどうか確認するね。」

と言われ自分が驚くことになつたが、今朝平戸先生を見かけて何か言おうと思つた時、先生の手が「オッケー」をした。僕は安心し、テストを終え家に帰つてホッとし

9月4日(月) 課題テスト

八月の後半、僕は絵を描いていた。今日のテスト勉を全力でしなくてはならない大事な時に、図書館でチラシ

た。そして油断していた。

寝ようとしていたら、母が清張作文の話を持ち出した。
「締め切りは月末やし、体育祭までちょっと余裕もある
し、折角途中まで書いとるんやけ、仕上げてしまつた
ら？」

僕はふと、夏休み前に国語のM先生が言つたことを思
い出した。

「あ、そうそう。夏休みの課題作文ね、二つ書いたら加
点するつて話やつたんよね。」

母の顔が一瞬にして、文楽人形のガブのように変わつ
た。

「なんでそんな大事なこと早く言わんのね。二学期の内
申点がどれだけ大事か分かつてしょーが。」

「だ、だつて、ノンフィクションとかあつたし……」

今度は母のまゆげが八の字になつた。

「あっちゃん、あれは自学でしょーがね。締め切りはま
だ先でしょーが。」

母は、もう今更言つたつてしょーがないねと言つたり、

宿題を優先させんにや いけんくらいちよつと考えたら分
かるやろうにとか、M先生が折角言つてくださつていた
のにとか、似たようなセリフを繰り返した。僕は、もう
どうしようもなくなつて、おやすみと言つて逃げたが、
母はいつまでも、

「あ～残念やつたね。途中まで書いとつたのにね。」
とやつていた。

松本清張思想文コンクールは、今年から夏休みの課題
作文のリストに加わつた。昨年僕が入賞したことがきつ
かけになつたのなら、学校に足あとを残せたようで嬉し
い。

絵は今回、平戸先生に見せたくて学校に持つて行つた
が、いつもは自分で出している。作文もそうだ。僕は優
等生の作文が書けないし、美術はいつも居残りだ。絵で
も作文でも、僕はひとつ仕上げるのに物凄く時間がかか
る。

「かんもん絵画コンクール」の壇之浦の戦いの絵を描い
ていた小四のある日、友達に遊ぼと言われて絵があるか

第9回
△子どもノンフィクション文学賞 ◇

らムリと言つたら、絵なんてあとから描いたらいいやんとケンカになつた。下書きは最低三日、色塗りは学校に行きながらだと二～三週間はかかるなんて普通は分かつてもらえない。小学校の先生に、「時間をかけて良いものができるのは当たり前、決められた時間でまとめる力が大事」と言われたことがある。これはこれからも、僕の人生の課題となるだろう。しかし自学は制限時間なしで納得のいくまで取り組んだからこそ、誰かに見てもらえるものができた。

新聞を読み、本で調べ、時間をかけて書いて書いたノートや、学校に行く時間すら惜しくなる程丁寧に書いたり描いたりしたものは、僕をいろいろな場所へ連れ出してくれた。

冬になると家の近くに出現する、「バビル二世」の怪鳥ロブロスのような鳥が「アオサギ」で、俳人の橋本多佳子が住んでいた廬山荘跡の山で子育てをしているのを見に行つたこと、解体前の折尾駅を見るため洞海湾を電車と渡船で一周したこと、市役所前の「マカロニ星人」

のマカロニの穴の影が春分と秋分の時だけヒマワリの形になるという記事につられて行つてテレビに映つたこと…このノートを見たら、僕はいつだつて全力で好きなことをしてきたことを思い出せる。そして、やり続けることで、何でも少しづつ上達するということも。このノートは、これからも静かに僕を励まし続けてくれる。

11月26日(日) アルフイーコンサート

その後無事?清張作文を仕上げ、「清張と鉄道」展にも行け、偶然会えたメーテルと話ができた。(清張記念館内ではメーテルの姿ではありませんので期待して行かないでください。)

10月からは、どのテストの話をしているか分からなくなるほど忙しくなつた。学力テスト、中間テスト、英検、英検IBAテスト、外部テスト、また学テ、文化祭を挟んで英検の面接、そして期末テスト。このテストだらけの日々での僕のささやかな楽しみは「空想科学読本」を

読むことだ。この本は漫画や映画の設定を科学で検証したもので、例えば宇宙戦艦ヤマト内の重力はどうやって作り出しているのかとか、ガンダムのビームサーベルはどこまで実用的なかなどを大真面目に論じていて、爆笑間違いなしのシリーズだ。作者の柳田理科雄さんは物理学者になりたくて東大に入学したが、塾の講師のバイトが面白くなつて中退し、ベストセラー作家になつたそうだ。相変わらず僕は「なりたい自分」がはつきりしないが、こんな話に出会うと、そのうちなんとかなるだろう♪でもいいのかなと気持ちが楽になる。

漫画の世界を大真面目に、といえば、小六の時に行つた「建設業のおもしろさを伝える講演会」は最高に面白かった。前田建設ファンタジー営業部の部長さんが、設定の通りに宇宙戦艦ヤマトを戦艦大和の中で作り、大和を壊しながら発進するためには必要な技術を真剣に考えて作った工程表を解説し、会場は笑いに満ちていた。

「前田建設ファンタジー営業部は、マンガに出てくる建物を実際に作ることになつたらどう事を大まじめに考

えている所です。マンガファンの人達にツッコミを入れられないよう、マンガや映画を見まくつて、マンガどちらがわないようにがんばっています。」

「漫画を読む仕事とかいいなあ、と思つたんよね、今やつたらそれだけじゃないつて分かるけどね。」

このノートは僕の歴史年表だ。

今日12年振りに小倉にTHE ALFEEがやつて來た。さすがに今回は、いつものように博多に遠征はできなかつたので助かつた。アルフィーは受験生に優しいグループだ。二階二列の真ん中で僕と父は星形の専用のペンライトを持ち、歌つて踊つて応援した。

これで今年のイベントは多分終了した。今、職員室で回覧してもらつてある17冊目が返つて来たら、チケットだけは貼つておくつもりだ。その次は、四月一日に行つた若松にある軍艦防波堤と、四月二日に参加した「軍艦防波堤語る会」の感想を持つて、来年の「語る会」についてみようと思っている。

つづく